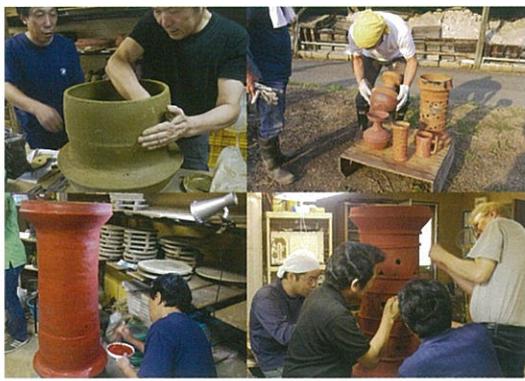


団体名	吉備特殊器台復刻プロジェクト実行委員会	
	代表者 松畑 熙一	記載者 近重博義
所在地(市区町村名のみ)	岡山市北区表町3-9-30	
活動目的	過去専門分野を含めても初の試みである吉備特殊器台の復刻を、より忠実な形で再現することにより、広くその存在の意味と認知度を高めることを目的とする。また多くの岡山県民の心にその末裔たる誇りと自信を醸成し「ふるさと吉備」再構築への情熱となって「すばらしい吉備の未来」に繋がることを願うものである。	
団体の紹介	吉備特殊器台復刻プロジェクト実行委員会は平成23年秋より、会合を重ねながら博物館、現地、研究者を訪ね基本的な知識を蓄えるための勉強会を実施。平成24年4月正式に吉備特殊器台復刻プロジェクト実行委員会(略称:特殊器台の会)として会則等を整備、代表に松畑熙一氏(中国学園学長)相談役に伊勢崎淳氏(備前焼人間国宝)などを迎え、約30名(現在)のメンバーで活動中。 事務局 近重博義(問い合わせ:086-231-4557 chika@kibi33.com)	
助成を受けての活動内容	<p>● 助成対象期間以前の活動</p> <p>平成23年秋より、会合を重ねながら博物館、現地、研究者を訪ね基本的な知識を蓄えるための勉強会を実施。平成24年4月正式に吉備特殊器台復刻プロジェクト実行委員会(略称:特殊器台の会)として会則等を整備、その後、実際に使用された胎土の特定に目処をつけ採取を実施、続いては土器作成に適した土作りを実施。また第1回野焼き(開放型)の試験を行いました。</p> <p>● 助成対象期間の活動</p> <p>平成25年</p> <p>5月 「岡山大学考古資料室 訪問」展示されている榑築遺跡の特殊器台やその他貴重な資料を熟覧。</p> <p>6月 「ベンガラ試し焼」特殊器台の赤色はベンガラと考え、成羽にて入手、試焼(800度)を実施。</p> <p>7月 「シャモット作り」器台の断片の観察から、シャモットが含まれていることが特定され、シャモットを作成。 「アマチュアによるミニチュア制作」高さ20数センチのミニチュアの器台を作成。 「第2回 野焼き試験」プロ・アマが作ったミニチュアを開放型野焼きで焼成。</p> <p>8月 「実物大制作(宮山型)」実物大の制作に関する技術的検証のため1基先行して作成。 「第3回野焼き試験(密閉型)」小林正史教授の意見を頂きながら試験焼成を実施。</p> <p>9月 「第4回野焼き試験(密閉型)」で実物大(宮山型)の試験焼成実施。</p> <p>10月 プロチームが3基(宮山、立坂、向木見)、アマチームが1基(宮山)を本番用に制作。</p> <p>11月 総社市備中国分寺駐車場の一角において制作した4基(特殊器台と特殊壺)を本番焼成。 前日より泊まり込み(三宅酒造)で準備し当日は県内外から数百人の観客を集めての大イベントとなり、報道各社の取材も受け成功裡に終了。</p> <p>12月 中国学園大講堂(岡山市庭瀬)に於いてシンポジウム「器台復刻から古代吉備がみえてきた!」を開催。基調講演に高橋護先生、パネルディスカッションに小林正史先生、福本明先生を迎えて約200人を聴衆を集めて実施。</p> <p>この間、報道各社の取材、ラジオ番組の出演を通じて広報活動を実施</p>	
助成を受けての成果	<p>弥生時代の大型土器制作の忠実な再現を謳う過程で専門家も気づかぬ発見を得ることとなった。特に備前焼作家のメンバー参加により考古学関係者に比べ多くの実体験を持つ彼らの考察は多くの観点においてその実体により近づいたものと自負している。また、活動のほとんどをHP、Facebook等で情報公開しておりその関心の度合いはさまざまにせよ多くの人の関心を得ることとなったのではないだろうか。特に山陰出雲の歴史研究者や愛好者の知る所となり、出雲吉備を結んでの活動報告イベント開催のオファーなどもすでにあり、地域間の文化交流深化への期待も生まれている。</p>	
今後の活動の課題点	<p>一般市民への浸透はまだ充分とはいえず、報道メディアなどを巻き込みながらより多くの人の関心を集めるための工夫が必要である。現段階では調査研究という地味な活動が主であったため報道される機会は生まれにくかったと考えている。しかし、今後はより注目されるよう工夫を加えながらイベントを計画実施しなければと考えている。</p>	
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	<p>HP URL <a href="http://kibi33.com/tokushu/">http://kibi33.com/tokushu/</a> (問い合わせ) 事務局 近重博義086-231-4557 chika@kibi33.com</p>	

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。  
A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)  
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。



# 吉備特殊器台 復刻プロジェクト



## シンポジウム

器台復刻から古代吉備がみえてきた!

日時

2013年11月30日(土)  
13:30 ▶ 17:00

会場

中国学園[12号館]  
大講義室(300席)  
岡山県岡山市北区庭瀬83

満席の場合は事前登録者優先とさせていただきます。  
駐車場はありますが、できるだけ公共交通をご利用ください。



### プログラム

基調講演 高橋 護 (元ノートルダム清心女子大学教授)  
「弥生から古墳へー特殊器台の果たしたその役割とは？」

活動報告

パネルディスカッション

参加料 資料代500円

## 野焼きの会

2013年11月2日(土)  
9:00 ▶ 16:00

雨天順延 予備日(3日、4日)

日時

会場

吉備路風土記の丘 第2駐車場

備中国分寺の南200m  
事前申し込みの必要はありません。



### プログラム

9:00より開始します。  
野焼き自体は11:30頃には終了、  
夕方16:00頃に取り出し予定。  
参加料 無料



主催 / 吉備特殊器台復刻プロジェクト実行委員会(通称:特殊器台の会)

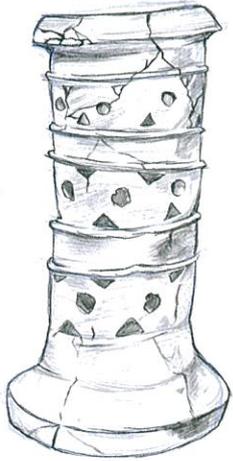
助成 /



公益財団法人 福武教育文化振興財団 公益財団法人 マルセンスポーツ・文化振興財団

後援 / 山陽新聞社 RSK山陽放送 TSCテレビせとうち 岡山歴史研究会 吉備学会 吉備歴史会

# 吉備特殊器台復刻プロジェクト



「吉備特殊器台って何？」

吉備特殊器台とは弥生時代後期に吉備で生まれた巨大な筒型の土器です。華麗な文様、丹で赤く装飾し王墓に立てられました。そして、特殊器台による祭祀は突然大和(現奈良桜井市)纏向の箸墓古墳の墳頂に現れ、その後、古墳に並べられる埴輪へと変化していきます。これは、吉備がヤマト王権の成立に深く参画した現れだとされ「吉備特殊器台」はその象徴なのです。

本企画はこの「吉備特殊器台」の復刻制作を忠実な形で果し、その意味と認知度を高めることを目的とします。そして、多くの人々の心に吉備人としての誇りと自信をもたらす「すばらしい吉備の未来」に繋がることを願うものです。

## 野焼きの会

**日時** 2013年11月2日(土)9:00▶16:00  
雨天順延 予備日(3日、4日)  
**会場** 吉備路風土記の丘 第2駐車場  
**プログラム** わら縄をなったり、火種をおこしたりなど弥生時代さながらに再現実験します。希望者の飛び入り参加も可。9:00より開始します。野焼き自体は11:30頃には終了、夕方16:00頃に取り出し予定。

## シンポジウム

「器台復刻から古代吉備がみえてきた！」

**日時** 2013年11月30日(土) 13:30▶17:00  
**会場** 中国学園[12号館]大講義室  
**プログラム** 基調講演 高橋 護 (元ノートルダム清心女子大学教授)「弥生から古墳へ—特殊器台の果たしたその役割とは？」  
活動報告 橋本勘介(備前焼作家/当会制作担当)  
パネルディスカッション  
コーディネーター  
柳瀬 昭彦(岡山商科大学非常勤講師/当会相談役)  
パネラー  
小林 正史(北陸学院大学教授)  
福本 明(倉敷市文化財保護課長)  
平川 忠(備前焼作家)  
参加料 資料代500円

参加申し込み票  「シンポジウム」に参加を申し込みます。

お名前 \_\_\_\_\_ ご所属 \_\_\_\_\_

ご連絡先 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

E-MAIL \_\_\_\_\_

※「野焼きの会」は事前の申し込みは必要ありません。  
※「シンポジウム」の申し込みは、いずれかの方法で下記までお申し込み下さい。  
Fax 086-274-8228 Tel 090-3375-1362 (事務局 チカシゲ) e-mail chika@kibi33.com

## 出演者プロフィール



### 高橋 護

元ノートルダム清心女子大学教授  
倉敷市林郷内木見出身  
明治大学 史学地理学卒、東京大学 山内清男先生に師事、岡山県文化財行政に永年携わる。岡山県立博物館 副館長、ノートルダム清心女子大学教授 退官後現在に至る。



### 橋本 勘介

備前焼作家  
1954年北海道寿都町生まれ。  
1981年備前焼に魅了され備前焼窯元で修行。  
1990年瀬戸内市東須恵に窯築し作家として独立。



### 柳瀬 昭彦

岡山商科大学非常勤講師  
岡山県玉野市出身  
國學院大学史学科昭和45年卒岡山県文化課、古代吉備文化財センター、県立博物館副館長を経て現在に至る。上東遺跡、百間川遺跡などの発掘調査を行う。著作「吉備の弥生集落」吉備人出版



### 小林 正史

北陸学院大学教授  
1957年 新潟市生まれ。  
アリゾナ大学人類学科、人類学博士  
著作小林正史2007年「弥生早期(夜白式)土器の野焼き方法」、「土器研究の新視点」pp.203-228、六一書房



### 福本 明

倉敷市文化財保護課長  
1956年岡山市生まれ  
関西大学文学部卒 倉敷市教育委員会 文化財保護課  
著作「吉備の弥生大首長墓・橋築弥生墳墓」2007新泉社



### 平川 忠

備前焼作家  
1955年備前市生まれ  
1981年 金沢工業大学建築学科卒業後、父正二の下で陶技を学ぶ。1989年 備前市新庄に窯を築き古窯と陶土の研究を始める。岡山県備前焼陶友会会員 備前陶心会会員

## 吉備特殊器台復刻実行委員会(特殊器台の会)

- 代表 / 松畑照一 相談役 / 伊勢崎淳 吉川昌宏 柳瀬昭彦
- 理事 / 橋本勘介 小澤慎 岡将男 近重博義 その他メンバー約25名
- 事務局 / 岡山市北区表町3-9-30アトリエマリー二内 近重博義
- 連絡先 / 090-3375-1362(チカシゲ)
- e-mail chika@kibi33.com URL http://kibi33.com/tokushu

## 開催予告 「新邪馬台国サミット イン 吉備」

- 昨年の「出雲、近江、吉備」に加えて「丹波説、阿波説」の論客登場
- 日時: 12月1日(日) 午後1:00~ ※要申込み
- 場所: 山陽新聞社9F講堂(岡山市北区柳町2-1-1)
- 出演者(敬称略)
- 伴とし子(丹波説)林博章(阿波説)
- 岡将男(吉備東遷説)澤井良介(近江説)
- 田中文也(出雲説)若井正一(吉備説)
- 主催: TSCテレビせとうち

